

イエスさまが教えておられたのは、まさにこの福音です。神の国、神のご支配が実現し、人々が捕らわれている罪と死から解放され、回復させられ、自由にされるといことです。そして、この神のご支配は、イエスさまが語られた今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した、と語られました。なぜなら、この神のご支配を実現するお方こそ、これを語っておられるイエスさまご自身だからです。

そして、このイエスさまのメッセージは、2000年後の今の礼拝においても、同じように語られ続けていることです。わたしたちは今ここで、イエスさまの福音を聞いています。あなたがたは罪から解放された。滅びの死から救われた。新しい命が与えられた。神の御子イエスさまが、これを実現した。

この宣言を、わたしたちも繰り返し、主の日ごとに聞いているのです。

この、イエスさまによって実現する、解放の知らせ。今日の聖書箇所においても、イエスさまは同じように語っておられたことでしょう。神のご支配が実現する。神の子であるわたしが、それをもたらす。わたしがあなたたちの罪を贖い、解放し、神の子として新しく生きる者とする。だから、立ち帰りなさい。悔い改めなさい。信じなさい。と。

<縛られていた女性>

さて、その会堂に、十八年も病の霊にとりつかれている女がいた、とあります。腰が曲がったままで伸ばすことが出来なかったといいます。

「病の霊」とありますが、今日の箇所では、悪霊やサタンがどうこうというよりも、そうやって人を苦しめたり、弱らせたりする病気のことを、ここでは「病の霊」とか、「サタンに縛られていた」と表現しているようです。

この「病気」という言葉は、虚弱とか、弱さ、無力、という言葉です。病気をはじめ、わたしたちは、生きていくにあたって、多くの弱さや、虚しさや、無力さに捕らえられています。しかしイエスさまが、その無力さの中から、弱さの中から、解放して下さる。その出来事が、ここでは語られているのです。

さて、イエスさまは、「その女を見て呼び寄せ」たとあります。ここでは、病の女性が自ら癒しを願ったり、求めたりしたのではなかったのです。

しかし、この女性は、この日、神さまを礼拝する安息日。神の言葉を聞くために、この会堂にいました。当時、病気は本人の罪のせいであるとか、サタンの働きであるとみられていました。もしかすると、人目をはばかって、身を小さくして、目立たないように会堂の隅にいたのかも知れません。それでも、女性は神の御言葉を求めて来ていた。

そして、イエスさまはこの女性に目を留められたのです。イエスさまは、女性をご自分の許に招かれ、御言葉を告げられました。「婦人よ、病気は治った。」

「治った」と訳されていますが、元の言葉は「解放された」という言葉で、完了形で書かれています。それは、もうここで、既に起こったことの宣言として語られたのです。「婦人

よ、あなたは、捕らえられているその弱さから、無力さから、苦しみから、もう解放された。」
神のご支配を実現するイエスさまが、今ここに、女性と共におられるからです。弱さも無力さも病も罪も、すべてを神の力で覆って下さるお方が、今ここにおられるからです。

イエスさまは、御自分が来られたことを、イザヤ書の御言葉の実現であると語られました。
「主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」
そして、一人の女性を、神のご支配の中で立ち上がらせて下さった。弱さ、無力さに捕らわれていた女性を、イエスさまが解放し、イエスさまが支配し、回復させて下さった。
女性の病からの解放は、この御言葉が、まさに実現したことの「しるし」なのです。

イエスさまが手を置かれると、女性は腰がまっすぐになり、神を賛美した、とあります。弱さに捕らえられて、苦しんでいた人が、イエスさまのご支配の中で、神のご支配の中で、解放され、回復し、自由になり、神さまをほめたたえる者とされた。
これが、この日、安息日の会堂で起こった出来事なのです。

<偽善者たち>

ところが、これに腹を立てた人がいました。この会堂の責任者である「会堂長」と呼ばれる人です。

彼が腹を立てたのは、イエスさまが安息日に病人をいやしたからです。今日の旧約聖書にあった「十戒」に、安息日に働いてはならない、ということが記されていました。病をいやすのは、働いたことになります。これは、当時のユダヤ人の中では、れっきとした律法違反とされました。彼は、自分が責任を持っている会堂で、律法違反が行われたことに、腹を立てたのです。彼は言いました。

「働くべき日は六日ある。その間に来て治してもらおうがよい。安息日はいけない。」

会堂長は、イエスさまの御業を咎めると共に、他の人々がこれを見て、病を治して欲しいと、イエスさまのところに集まってくるかも知れない、と思ったのでしょうか。それは好きにすればいいが、安息日だけはだめだ。それは律法違反だ。そう言ったのです。

…さて。会堂長は、イエスさまの、神のご支配が実現するという御言葉を。あなたがたを解放し、回復させ、自由にしよう、との宣言を、どう聞いていたのでしょうか。いつも会堂の隅っこに来ている、腰の曲がった気の毒な女性を、どのような目で見ていたのでしょうか。その彼女が、イエスさまによって苦しみから解放され、背筋を伸ばし、神を賛美した。このことをどう思ったのでしょうか。

会堂長は、それらのことを、何も聞いておらず、何も見ておらず、何も関心がなかったのです。彼が考えていたのは、自分の会堂で問題が起こってはいけないということ。安息日の戒めが破られてはいけないということ。自分の立場、自分の務めを守ることです。

福音を聞かず、神の救いの御業を見ず、隣人を愛さず、神を賛美することが出来ない。深刻な罪の弱さに捕らわれていたのは、むしろ会堂長の方だったのかも知れません。

イエスさまは、そのような会堂長に言われました。「偽善者たちよ」。複数形なのは、会堂長の発言に、同調した人たちが沢山いたからでしょう。

神の御子が、解放を宣言されたこの会堂で。神のご支配を現わされたこの場面で。その御言葉を聞くことが出来ず、御業を受け入れることが出来ない者たち。目が見えず、耳が聞こえず、捕らわれている者たちが、他にもたくさんいたのです。

<解いてやるべき>

イエスさまは、彼らにこう語られました。「偽善者たちよ、あなたたちはだれでも、安息日にも牛やろばを飼い葉桶から解いて、水を飲ませに引いて行くではないか。この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

安息日の戒めでは、牛やろばが生きるために、家畜小屋から縄を解いて、水を飲ませに引いて行くことは、認められていました。なぜなら、安息日が、牛やろばを苦しめるものになることは、あり得ないからです。

今日読まれた旧約聖書は、十戒の安息日の部分ですが、そこにはこうありました。

「安息日を守ってこれを聖別せよ。あなたの神、主が命じられたとおりに。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる。あなたはかつてエジプトの国で奴隷であったが、あなたの神、主が力ある御手と御腕を伸ばしてあなたを導き出されたことを思い起こさねばならない。そのために、あなたの神、主は安息日を守るよう命じられたのである。」

仕事を休むのは、「あなた」だけでなく、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、とあります。イスラエルの民も、その家族も、奴隷も、家畜も、みな休み、安息に与るのが、安息日なのです。

そして、なぜすべての者が休むのかというと、安息日は、イスラエルの民が、かつてエジプトの国で奴隷であったところを、神さまが導き出して下さった。奴隷から解放し、救い出して下さった。そのことを思い起こすために備えられた日だからです。

安息日、イスラエルの民は神さまを礼拝します。救いの恵みに感謝して。解放された恵みを喜んで。神さまのためにその日、一日をささげ、神さまとの深く交わり、神さまと共にある心からの安息にあずかる日なのです。

その日には、奴隷も、牛も、ろばも顧みられる。家畜でさえ休みが与えられ、神さまの恵みと平安に共に与り、神さまの解放を共に味わうのです。だから、安息日に働いてはいけな

い。しかし、だからといって、家畜を繋いだまま放置して、飢えさせたりすることはありません。家畜を生かし、休ませるために、縄を解いてやり、水を飲ませて良いのです。

それならば、イエスさまに弱さから解放された女性はどうなのか。安息日は、牛もろばも恵みに与り、縄から解かれる日であるのに。ましてや彼女は、会堂長たちと同じ、イスラエルの民であり、彼らの同胞であり、同じアブラハムの子孫、アブラハムの娘なのです。それなのに、ずっと苦しみに、弱さに、捕らわれ続けてきた。

だから、イエスさまはおっしゃったのです。「この女はアブラハムの娘なのに、十八年もの間サタンに縛られていたのだ。安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったのか。」

神さまが神の民を、苦しみから解放して下さった恵みを覚える安息日。すべてのものが、恵みを感謝し、神を褒めたたえ、神さまの御許で安らう安息日。病に捕らわれ、弱さに打ちひしがれ、苦しみの中にある女性を解いてやるのは、むしろ当然のことではないのか。神さまの恵みの内に回復させられるのは、当然のことではないのか。形式的なことに捉われて、神さまの御言葉を聞かず、苦しみにある女性に心を寄せることもなく、恵みの御業を受け入れようとしなないのは、この安息日を定めて下さった神さまの御心に、むしろ背いているのではないのか。そう、イエスさまは問われたのです。

<祝福を受けるべき者たち>

イエスさまは、一人の女性のみならず、罪に縛られているすべての人を、解放しようとしておられます。

アブラハムの娘、という言葉が出て来ましたが、アブラハムは、旧約聖書の創世記で、神さまが地上のすべての人々を祝福するために、選ばれ、立てられた人です。アブラハムの祝福を受けるのは、アブラハムの子孫であるイスラエルの民だけではありません。神さまは、アブラハムを基として、地上のすべての人々を祝福しようとしておられます。イエスさまによって、このアブラハムの祝福は、地上のすべての人々に及びます。

ここにいるわたしたちもまた、イエスさまは祝福を受けるべき、アブラハムの子として見つめて下さっています。救われるべき、解放されるべき者として、見つめて下さり、呼び寄せて下さり、そして、宣言して下さいます。

「あなたを捕らえている、その弱さ。無力さ。苦しみ。罪と死。そこから、あなたは解放された。わたしが、あなたを解放する者であり、わたしが今、あなたと共にいるからだ。」

そして、わたしのために釘打たれた手で、わたしの痛みに、弱さに、苦しみに触れ、いやして下さるのです。

わたしたちの罪を十字架によって担い、そして復活の命を与えて下さるイエスさまが、わたしたちと共におられます。罪にも、死にも勝利し、天も地もすべてを支配なさる方が、わたしたちと共におられます。

わたしたちもまた、弱さを抱えて、苦しみ悩みを抱えて、小さくなって生きているかも知れません。あるいは、御言葉を聞かず、隣人の苦しみに無関心に、自分勝手な日々を歩んでいるかも知れません。しかし、わたしたちは主の日ごとに、イエスさまの復活の日である安息日ごとに、この解放の宣言を聞くのです。イエスさまが、罪を贖って下さった。死に勝利して下さった。あなたはもう、罪の支配の中にはいない。弱さに打ちひしがれることはない。無力さの中で嘆くことはない。神の恵みの中で、生きなさい。

イエスさまは語られました。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、／主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、／捕らわれている人に解放を、／目の見えない人に視力の回復を告げ、／圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」そして、言われたのです。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」。

わたしたちもまた、今ここでこの救いの実現を聞き、イエスさまのご支配の下で、解放され、回復させられ、自由にされ、神さまを賛美する者とされているのです。

【お祈り】

天の父なる神さま

アブラハムとの契約を忠実に守って下さり、地上のすべての者に。今、この時代、この地に生きているわたしたちにも、祝福を与えて下さることを、感謝いたします。

イエスさまは、そのために遣わされ、わたしたちを罪から、あらゆる弱さと無力さから解放し、神の力、愛の力によって、わたしたちを支配して下さいます。

わたしたちは今日のこの安息日にも、「あなたは、解放された」とのイエスさまの御声を聞いています。この解放の宣言を信じる者として下さい。イエスさまの十字架と復活を見つける者として下さい。わたしたちが、共にいて下さるイエスさまにあって、神さまを心から礼拝し、賛美する者となることができますように。

イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン